

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果等について

みだしの調査が、4月17日に実施されました。

現在、各学校で調査結果の分析・検証を進めており、今後、自校の課題を踏まえた指導の改善に一層取り組んでいくところです。

つきましては、多治見市全体の傾向をお知らせしますので、お子さんの学習習慣や生活習慣を見つめ直す際の参考として活用いただきますようお願いいたします。

1 学力調査の結果より

調査を行った教科「国語・算数・理科」の平均正答率については、国をやや下回り、県とは同等です。また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げるができます。

- 【国語】・書く目的や意図に応じて、自分の思いや考えを伝えるためにも、適切に漢字を使い分ける力が身に付くように工夫すること。特に同音異義語から文章に合う漢字を選ぶ力を付けること。
・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができるようにすること。
- 【算数】・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるようにすること。
・百分率で表された10%を0.1と捉えることや、「増量後の量」が「増量前の量」の110%になること、または1.1倍になることを捉えること。
- 【理科】・電気を通す物と磁石に引き付けられる物等、物質に関する知識を正しく身に付けること。
・発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。

ご家庭では、学校から配付される個人票を参考に、「できた問題とできなかった問題」、また「なぜ間違えたか」などを具体的に話し合ってみてください。

また、明らかになった課題に対して今後努力することや気を付けていくことを、お子さん自身が決めるような振り返りとなるようお声がけをお願いします。

2 質問紙調査の結果より

質問紙調査において主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

- ・一日の家庭における家庭学習時間(月～金)1時間以上は約60%で県とほぼ同等で、国を上回っています。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる割合が、国を上回っており、自分で考え、自分から取り組んでいる児童ほど正答率が高い傾向にあります。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる割合は、国・県をやや下回ります。学習を見直して、次の学習につなげている児童ほど正答率が高い傾向にあります。

<生活習慣>

- ・朝食を毎日食べる割合が県、国を上回っています。
- ・一日の家庭における読書時間(月～金)30分以上が、県や国を大きく上回っています。

<その他>

- ・自分にはよいところがあると思う割合は、昨年度と比べて向上しましたが国・県を下回っています。
- ・将来の夢や目標をもっている割合も昨年度と比べて向上しましたが、国・県を下回っています。

本調査からも、家庭や学校での学習習慣・生活習慣が学力にも大きく関わっていることは明らかであり、『習慣』は、意識して努力を続けることにより必ず改善できます。

家庭と学校が協力し、子どもが望ましい習慣を身に付け、将来の自立や個性豊かな自己実現に向かっていくことができるよう、今後もご理解とご協力をお願いいたします。